

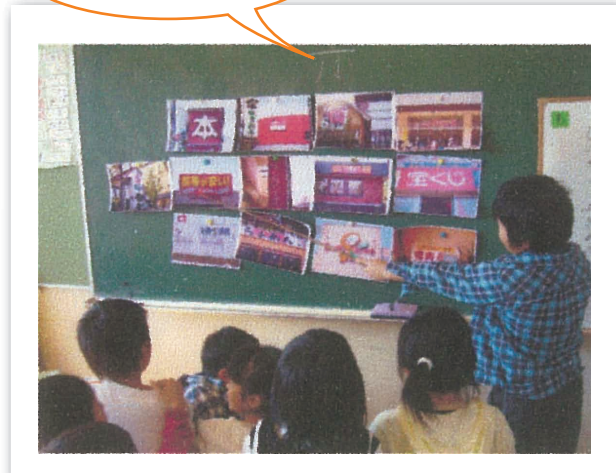


地域に色を探しに行きました。グループごとに担当の色を決めて、その色を見つけたら写真に撮ります。

あっ!
あそこにあるよ!!



赤はまちの中に
これだけありました!



撮ってきた写真を、みんなで発表しました。色によってたくさん見つかったものと、あまりなかったものがあることに気づきました。

ここでは、モデルプログラムをもとに行った取り組みの様子を掲載しています。実際に取り組んだ学校の授業の様子や先生の声を事例集で紹介しています。併せてご覧ください。

まちの色・いろいろ

No. 04

まちにあるいろいろな色を集め、色ごとに分類し、まちの中のどこにどのような色が使われているかや、色の役割などについて考える。



対象学年・関連教科

【対象学年のめやす】

総合的な学習の時間 ●小学校3・4年生

【関連する教科】

- 図画工作
- 社会

まちの色・いろいろ

1. 学習のねらい

- まちの中に存在する色は、単なる装飾的な役割を持つだけでなく、様々な意味的記号として機能し、まちの景観を形づくっている。そうした生活の中にある色に注目し、まちの景観を構成する色の役割について考える。
- 小学校中学年を想定しているが、2年生の生活で取り組むことも可能である。

2. 学習活動

- グループなどに分かれて、特定の色を調べることによって、まちではどのような色が使われているのか。そこから、その色が使われているのがどのような意味なのかに気づくようにする。そうした活動を通して、まちを構成する細部にも目を向けることが重要である。
- 例えば、赤色は人々の注意をもっともひきつける色であり、人々に警告を発する意味を持っている。看板などに使用される場合、赤色はよく目立つ色であり宣伝効果を発揮する。黄色は、赤色の次に人々の注意を喚起する色である。また、まちの中では黄色は、赤色と組み合わせて使用されている例もよく見られる。他には、木々の緑、オレンジ色の夕日の空、空の青さなど、広い視野を持ってまちのさまざまな色を写し撮って欲しい。

3. 準備するもの

【用具】

- デジタルカメラまたはレンズ付きフィルム(各グループに1台)
- デジタルカメラを使用した場合はプリンタ
- 写真を貼るための台紙
- 展示用のパーテーション等

【場所】

- 教室、学区域など

4. 学習の流れ(授業展開のイメージ)

	学習のねらい	学習活動	教師の指導	評価
STEP 1 【2時間】	まちに様々な色があることや、効果や意味があることに興味を持つ	●グループを作り、まちのどのようなところに自分たちのテーマの色があるか予想を立てる。	●撮影するポイント、注意点を説明する。	興味・関心 活動の意欲 (発言・観察)
STEP 2 【2時間】	自分たちのテーマの写真を撮る	●グループで写真を撮りに行く。	●活動の注意事項を説明する。 ●事前に保護者に付き添いを依頼し、各グループに1人大人が付き添えるように手配する。	表現力 (撮った写真)
STEP 3 【2時間】	自分たちのテーマとまちの色について気づいた事を発表する	●特徴やイメージを言葉にしてまとめる。 ●色の持つ意味や効果を考える。 ●クラスで色のグループごとに発表する。	●現像した写真(インスタントカメラ、デジタルカメラなど使いやすい)をグループに渡す。 ●発表するための場の設定。	表現力(発表) コミュニケーション能力 (発表)

5. 留意点

- 最終的なねらいは、全体の景観にとって色がどのような役割を持つのかに気づくようにすること。そのためには、建物や標識、看板などの細部を観察するだけでなく、まわりの木々や空の色などの自然物にも目を向け、景色全体にも視野が広がるようにし、まち全体の調和のあり方に気づかせること。
- まち歩きの際の交通安全を確保する。特に、観察中や写真撮影中の児童は周囲への注意が疎かになりがちになるため、安全には十分配慮する。
- 大きな単元の導入部分として実施するのに適しており、他のプログラムと組み合わせることが望ましい。

6. 発展へのヒント

- 「No.05:地域カルタをつくろう」を行う。
- 時間や季節による景観(見え方)の変化について意識を向け、異なる見え方を収集する。
- 朝、昼、夕方のまちを観察して、その違いや特徴を表現する。
- 色と素材のパターンを言葉で表現するとともに、それを活かした教室のインテリアを考える。